

2019年4月改訂	承認指令書番号	28 動薬第 929号
貯法 室温	販売開始	2018年9月

動物用医薬品

ブラベクト[®] スポット 猫用

【本質の説明又は製造方法】

ブラベクト スポット猫用は、フルララネルを主剤とする滴下用のノミ及びマダニ駆除剤である。フルララネルは、合成イソキサリリン系化合物であり、γ-アミノ酪酸（GABA）作動性塩素イオンチャネルのアンタゴニストに分類され、節足動物のGABA 作動性塩素イオンチャネルに作用し、塩素イオンの神経細胞流入を阻害する。その結果、抑制が効かなくなり、過度の興奮を起こすことでノミ及びマダニを死亡させる。

【成分及び分量】

本品1 mL中にフルララネル280 mgを含有する。

【効能又は効果】

猫に寄生するノミ及びマダニの駆除

【用法及び用量】

猫の肩甲骨間背部の被毛を分け、皮膚上の部位に直接次のピベット全量を滴下する。なお、体重12.5 kgを超える猫については、フルララネル40 mg/kgを基準量とし、適切なピベットを組み合わせ投与すること。

体重	容器サイズ
1.2 kgから2.8 kgまで	0.4 mLピベット1個全量
2.8 kgを超え、6.25 kgまで	0.89 mLピベット1個全量
6.25 kgを超え、12.5 kgまで	1.79 mLピベット1個全量

【使用上の注意】

（基本的事項）

- 守らなければならないこと（一般的注意）
 - 本剤は効能・効果において定められた目的のみに使用すること。
 - 本剤は定められた用法・用量を厳守すること。
 - 本剤は獣医師の指導の下で使用すること。

（使用者に対する注意）

- 使用時には手袋を装着することが望ましい。
- 使用後はよく手を洗うこと。
- 喫煙や飲食をしながら投与しないこと。

（猫に関する注意）

- 本剤は猫の外用以外に使用しないこと。

（取扱い及び廃棄に関する注意）

- 本剤には引火性のある溶剤を使用しているため、保管及び使用の際には火気を避けること。
- 食品と区別し、小児の手の届かないところに保管すること。
- 本剤の保管は直射日光、高温及び多湿を避けること。
- 使用期限が過ぎたものは使用しないこと。
- ラミネート包装は使用する直前に開封すること。また、開封後は速やかに使用すること。
- 使用済みの容器は、地方公共団体条例等に従い処分すること。
- 本剤を廃棄する際は、環境や水系を汚染しないように注意し、地方公共団体条例等に従い処分すること。

2. 使用に際して気を付けること

（使用者に対する注意）

- 本剤の有効成分又は本剤に含まれる他の成分（デイト）に過敏症がある場合は使用しないこと。
- 本剤投与後、完全に乾くまでは投与部位に直接触れないこと。また、投与したことを知らない人も触れないように注意すること。特に小児が、投与した猫に触れないように注意すること。

- 本剤を使用した日は、投与した猫と一緒に寝ないこと。
- 本剤が皮膚に付着した場合は、まれに発疹等があらわれることがあるので、石鹸を用いて水でよく洗い流すこと。また、目に入った場合には、直ちに流水中で洗い流すこと。
- 誤って本剤を飲み込んだ場合は、直ちに医師の診察を受けること。
- 投与の際に本剤を床等にこぼした場合、ティッシュペーパー、洗剤等を使って拭き取ること。

（猫に関する注意）

- 本剤を反復投与する場合は12週間に1回を超えないようにすること。
- 8週間よりも短い間隔で反復投与したときの安全性は確認されていない。
- 本剤投与後は、投与部位が乾くまで、猫が投与部位に触れたり、舐めたりしないように注意すること。また、投与した日は、同居する猫や他の動物との接触を避けること。
- 副作用が認められた場合には、速やかに獣医師の診察を受けること。

（専門的事項）

①対象動物の使用制限等

- 本剤は1回投与すると通常約3か月間新規のノミ及びマダニを駆除することができる。
- 本剤は11週齢未満の猫又は体重1.2 kg未満の猫には投与しないこと。
- 繁殖に用いる猫、妊娠中あるいは授乳中の猫に対する安全性は確認されていないので、投与しないこと。

②重要な基本的注意

- 本剤の投与前には健康状態について検査し、元気・食欲不振、発熱、下痢、重度の皮膚疾患など臨床異常を認めた場合は投与しないこと。
- 複数飼育の場合は、個体間でのノミ及びマダニの再寄生を最小限にするため、全頭に投与することが望ましい。
- 本剤投与後の猫の水浴あるいはシャンプーの影響については検討されていないが、本剤投与後3日間は、水浴あるいはシャンプーを控えることが望ましい。

③相互作用

- フルララネルは血漿蛋白結合率が高い化合物であり、蛋白結合率の高い他の薬剤と併用すると血漿中の蛋白との結合において競合し、本剤又は競合する薬剤の血漿中遊離型濃度が変化し、それぞれの薬剤の有効性又は安全性に影響するおそれがあるので、併用する際は十分に注意すること。なお、蛋白結合率の高い薬剤としては、非ステロイド系抗炎症剤、ループ利尿剤や炭酸脱水素酵素阻害剤、一部のACE 阻害剤及び抗凝固剤等がある。ただし、犬の血漿を用いた試験では、フルララネルの血漿蛋白結合率は、カルプロフェン及びフルファンリンによって影響を受けなかった。
- 薬理試験や臨床試験において、一般的に獣医療で使用されている薬剤と本剤との相互作用は認められていない。

④副作用

- 海外で実施した臨床試験において、投与部位に軽度で一過性の紅斑、掻痒及び脱毛（2.2%）、投与直後の無関心、振戦及び食欲不振（0.9%）、嘔吐及び過流涎（0.4%）が認められた。
- 本剤の臨床適用量の上限量（フルララネルとして93mg/kg体重）を経口投与して実施した猫の安全性試験において、一過性の流涎、発咳及び舌を噛む行動が認められた。

⑤その他の注意

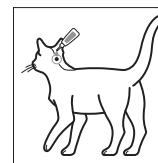
- 本剤は、猫に寄生したノミ及びマダニを駆除する動物用医薬品であり、これらの寄生虫が媒介する疾病の伝播を阻止できるかについての検討は行っていない。

【投与の方法】

ステップ1: ラミネート袋を開封してピベットを取り出す。ピベットの本体部分を持ち、上に向けた状態でキャップを1回転させて開封する（キャップはピベットに固定されているので外れない。開いた状態でチューブ本体を強く押すと吹き出す恐れがあるので注意）。



ステップ2: 投与しやすくするため、猫は立たせるか、背中を水平にして座らせる。



ステップ3: 猫の肩甲骨間背部の被毛を分け、皮膚上の部位に直接ピベット全量を滴下する。体重6.25kgを超える猫の場合には2か所に分けて投与すること。

【包装】

- 0.4 mL ピベット（フルララネルとして112.5 mg含有）
- 0.89 mL ピベット（フルララネルとして250 mg含有）
- 1.79 mL ピベット（フルララネルとして500 mg含有）

【製品情報お問い合わせ先】

MSDアニマルヘルス株式会社
〒102-8667 東京都千代田区九段北一丁目13番12号
TEL: 03-6272-1099 FAX: 03-6238-9080

製造販売元（輸入）

MSDアニマルヘルス株式会社

東京都千代田区九段北一丁目13番12号



獣医師、薬剤師等の医薬関係者は、本剤による副作用などによると疑われる疾病、障害若しくは死亡の発生又は本剤の使用によるものと疑われる感染症の発生に関する事項を知った場合において、保健衛生上の危害の発生又は拡大を防止するために必要があると認めるときは、上記「製品情報お問い合わせ先」に連絡するとともに、農林水産省動物医薬品検査所（<http://www.maff.go.jp/nval/iyakutou/fukusayo/sousa/index.html>）にも報告をお願いします。



180104 R2 (022284)